

ネットワーク

がんばってまーす

公害苦情処理で心がけること

埼玉県北本市市民経済部環境課主事

小島 有香子



北本市は、東西 5.8 km、南北 5.3 km、面積 19.82 km²の人口約 6 万 7 千人のまちです。埼玉県のほぼ中央部、都心から約 45 km 圏に位置しており、ベッドタウンとして発展しています。主要交通として JR 高崎線、国道 17 号線及び中山道が市中央部を南北に縦断しており、これに沿って市街地が形成されています。その外側には、緑豊かな田園地帯や雑木林など魅力ある豊かな自然が広がり、西側には荒川が流れています。また、市南部を通過する圏央道まで約 10 分でアクセスできます。さらに、国道 17 号の慢性的な渋滞緩和を図るため、国道 17 号上尾道路の整備が進められており、埼玉県中央地域における道路ネットワークの形成に多くの期待が寄せられています。

市内には、樹齢約 800 年と推定される「石戸蒲ザクラ」があり、大正 11 年に国の指定天然記念物に指定され、日本五大桜の一つとしても知られています。また、古くからトマト栽培が盛んだったことから、トマトを使った特産品が次々と開発されており、なかでも「北本トマトカレー」は各地のグルメイベントで賞を獲得するなど、好評をいただいています。さらに、毎年 11 月には関東最大級のねふたを目玉とする北本まつりを開催していますので、ぜひお越しください。



石戸蒲ザクラ

さて、私の所属する環境課環境政策・衛生担当では、公害苦情相談のほかに、地球温暖化対策、畜犬登録及び狂犬病予防、鳥獣保護、浄化槽の維持管理、空き地の雑草、害虫苦情等の幅広い業務を行っております。騒音・振動・悪臭等の苦情相談件数としては、年間 20 件前後で推移しており、そのほとんどが生活騒音等の法的規制のない案件になります。電話や窓口で相談が寄せられると、今起こっているのか、現場で立ち会えるかを確認し、できる限りすぐに現場に行き職員が直接詳細を確認するようにしています。

今までの公害苦情処理案件で、私が印象に残っている事例を 2 つご紹介します。一つ目は、平成 21 年からの振動問題です。ある地区から振動の相談が複数寄せられたことを契機に、原因を調査することになりました。苦情を寄せられた当初から振動発生源の予測はついていたものの、明確に断言できる資料がなかったため、地区内での聞き取りや複数の工場へ立ち入り調査、工場側との同時測定を行いました。結果として、発生源であった A 社は苦情地域とは線路を挟んだ工業専用地域に立地しており、電車の振動や複数の工場があるなかでの特定には約 1 年半掛かってしまいました。

また、工業専用地域は振動規制法の適用除外にあたるため、指導は出来ず、市から要望書を提出することによって改善を求めた結果、A社は平成25年に防振対策を講じてくれました。対策後はしばらく苦情もなかったものの、平成28年頃から再び相談が寄せられることがあり、市としてA社に対し地域住民への配慮の願いを続けています。この事例は長期にわたるもので、担当者の異動もあり、住民や事業者への対応にあたって、詳細な記録の管理と引き継ぎの重要性を認識するものとなりました。

二つ目は、低周波音の問題です。現場は、以前B社建設時に作業時間が守られていないとの相談から業者へ指導した経緯がある場所でした。B社の営業開始後、同じ相談者から「屋上に設置してある太陽光発電システムのパワーコンディショナーからの不快音で体調を崩した。」という相談が寄せられたため、複数の職員で訪問しましたが、音の確認は取れませんでした。「低周波音で聞こえ方には個人差がある。」との相談者の主張により、低周波騒音計での簡易測定をすることになりましたが、あくまでも目安でしかないことを事前に十分に説明し、納得されたうえで行いました。B社側にもご協力いただき、機器のスイッチを操作しながら測定を実施し、結果として測定値は参照値以下、機器との関係性も数値には表れませんでした。相談者はその結果に納得され、それ以降、相談は寄せられていません。今はテレビやインターネットでたくさんの情報を得ることができる時代ですが、公害苦情にはさまざまな背景があり、似たような事例があっても原因を決めつけることはできません。また、相談者が予備知識を持っている場合もあるので、行政職員は相手が納得するような丁寧な説明が求められます。この事例では、低周波音の測定までに事前の十分な説明が重要であること、感覚公害が個人差だけでなく、相談者の気持ちに大きく左右されるものであることを実感するものとなりました。

私は公害苦情処理業務に従事して、5年目になりますが、それぞれ問題の背景や状況が異なり、同じ案件は一つもなく、対応に苦慮することが多くあります。また、すっきりと「解決！」と言えることはほとんどなく、過去の問題がくすぶり続け、再び問題となることもあります。そのなかで、経験の長い先輩方に相談したり、過去の記録からヒントを探ったりすることで、引き出しを多く持つておくことが役に立つと感じています。そして、詳細な記録を残すことで、自分の経験もいずれ何らかの形で解決へのヒントになればと考えています。今後も日々の業務を一日一日真摯に取り組んでいきたいと思えます。